

夢のつばさ♥プロジェクト 平成25年度 事業報告書（案）

2013年4月1日～2014年3月31日

1. キャンプ

(1) 夏キャンプ

【実施期間】2013年8月6日～8月9日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園

【参加内訳】子ども26名、学生ボランティア27名、スタッフその他17名

【主な内容】

8月 6日	開会式、施設内探索/宝探しゲーム
8月 7日	敷島製パン埼玉工場、がん研究会有明病院 見学
8月 8日	朝の勉強会/レポート作成、運動会/水遊び、音楽会（フルート四重奏・ピアノ）
8月 9日	閉会式、写真スライドショー、保養所の方へ御礼

(2) 冬キャンプ

【実施期間】2013年12月21日～24日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園

【参加内訳】子ども26名、学生ボランティア40名、スタッフその他14名

【主な内容】

12月 21日	開会式、アイスブレイクゲーム
12月 22日	朝の勉強会、夢のつばさ祭り（お店屋さん、縁日）
12月 23日	料理実習（シチューとサラダ）、巨大人生ゲーム、クリスマス音楽会（フルート・バイオリン・ピアノ）、（サンタさんがプレゼントを持って登場）
12月 24日	閉会式、写真スライドショー、保養所の方々へ御礼

(3) 2014年春の交流会

【実施予定日】2014年3月30日（学生主導の運営・日帰り）

【実施予定地】宮城県仙台市

【実施内容予定】昨年度に続き、学生執行部が東北訪問を企画した。夢のつばさプロジェクトの事業として、スタッフ有志も同行し、仙台へ日帰りで訪問することを決めた。これまで夢のつばさキャンプに参加した子どもたちを対象とする。

2. その他事業

(1) 第3回東北大震災孤児・遺児保護者との懇談会、一関市教育講演会

【実施日】2013年11月18日

【実施場所】懇談会：宮城県仙台市、講演会：岩手県一関市

【参加内訳】懇談会：東北大震災孤児・遺児の保護者8名（孤児女子大伯母、孤児祖母、遺児母）、河野貴代美氏（元・お茶の水女子大学教授、心理カウンセラー、フェミニストカウンセリング）、室伏きみ子、滝澤公子

【内容】夢のつばさプロジェクトでは、キャンプに参加した東北大震災孤児・遺児の保護者との懇談会を、これまで2回実施してきている。その経験から、夢のつばさスタッフとの話し合いを心待ちにしてくださる方々があることが分かったので、本年度も懇談会を実施した。今回は仙台を中心とした保護者の方々に声をおかけしたところ、たくさんの参加があった。

被災の地に暮らしていても、同じような境遇の方たちと話すことはそれほど多くないとのことで、すぐに活発な意見交換となった。河野先生の心をほぐすファシリテートもあって、肉親を亡くされたことで家の内外に表れてきたひずみに苦しみ、必死に耐えて過ごす日常を語り合い、一同共感して涙したり、励ましあったりした。この懇談会が、保護者同士の良いつながりを作って、ある意味で自助グループ的なものとして機能する可能性が見えてきている。最後は笑顔で再会を約束して散会となった。

当日午後3時から、岩手県一関市にて、一関市教育委員会からの依頼による室伏きみ子お茶大名誉教授の講演会（幼・小・中・高・大学校長対象）が開催された。ご参加の皆様は夢のつばさプロジェクトについてもよくご理解下さり、子どもの学習支援の共催のお申し出もあった。今後、春の交流会などの共同開催を検討したいと考えている。

（2）ボランティア学生の自主活動

ボランティアの大学生らは、スタッフとの連携の下、平時は月1～2回、キャンプ前は毎週1回、お茶の水女子大学内で会合を開いている。学生たちは数回のキャンプ活動を経て、それぞれが大きな成長を見せるが、毎年、新たに1年生が参加すること、3年生になると就職活動で参加の機会が減少することなどから、学生の経験をどのように継承するかが問題となってきている。「傷ついた子どもとどのように関わるか」など、心理カウンセラー（ボランティア）や子どもの発達を専門とする大学教員らとの勉強会も企画を進めている。また、東日本大震災直後とは徐々に状況が異なっており、今年度は学生執行部が活動参加希望の学生へ、この活動の目的・子どもへの影響の深さなどを説明する面談を行って受け入れている。

また昨年度に続いて自主的な募金活動も行った（2013年8月：有志が地域の商店街のお祭りに参加。12月：市民マラソンの手伝いを兼ねて広報活動）。広報や活動資金獲得に対しても関心を持って参加している。

3. 総括

夢のつばさプロジェクトは、2013年度、11団体、個人141件からご寄付をいただいた。東北各地の教育委員会や児童家庭課等へのアプローチも継続して行った。今年度は各地の担当者の移動が多く、前任者に後任への申し送りを依頼したり、新任者へ説明して理解を求めたりする必要があったが、全般として募集は順調に進められて応募者も増えている。2013年度は、夏、冬のキャンプ活動に25名の募集人数を超える応募が集まっている。

キャンプ活動では、音楽会を催したり、体を動かしたり、社会見学を行ったり、幅広い活動を実施することに努めている。本年度はキャリア教育として、病院見学や工場見学も行った。受け入れ先は非常に協力的であり、大変有意義であった。本活動の中で、こうしたご助力を子どもたちの教育的なプログラムとしてよりよく活かすため、スタッフ会議などで検討している。

参加した子どもたちの満足度はとても高く、次の回も、学校行事等がない限りほぼ応募して来る状況である。続けて参加している子どもが心の内をポツリと語ることもあり、また子育ての日々を過ごすお祖母様や伯母様、ひとり親となったお母様方も、懇談会を心待ちにしてくださっており、この活動が参

加者たちにとって徐々に重みを増していることを感じる。事業の長期的な構想づくり、具体的な事業計画づくりが必要になっているが、現在はスタッフもすべてボランティアであり、やや手薄感がいなめない。夢のつばさプロジェクトの活動に参加した学生の中には、就職してからも参加するものも増えており、今後、この組織に専従で関わりたいと希望する学生も現れる可能性もある。長く継続する事業であり拙速は避けなければならないが、次年度はこうした観点からも検討を加えたいと考えている。

認定 NPO 法人に向けては、夢のつばさプロジェクト側の作業として、2011 年度、2012 年度の寄付について寄付者名簿、寄付金額や時期の詳細、寄付を充当する事業計画の提出、および夢のつばさ事業の収支詳細の報告を行った。